

採血を受ける患者様へ

- 血液検査は、病気診断・病状把握を行うために必要な医療行為です。
- 基本的に安全性の高い手技ですが、まれに合併症がおきることがあります。
- 患者様には、血液検査の必要性・危険性を十分にご理解いただいた上で検査を受けて頂くようお願い致します。

血液検査における合併症



①止血困難・皮下血腫

採血後の不十分な止血操作などが主な原因です。採血後は、**5分**程度親指でしっかり圧迫してください。**抗凝固薬の服用中の方は、10分**程度親指でしっかり圧迫してください。**出血しやすい患者様はお申し出ください。**内出血があっても、ほとんどが1週間程度で自然に治ります。

②アレルギー

消毒薬の種類などでかゆみ、発疹をはじめとするアレルギー症状が出現することがあります。

アレルギーのある方は、検査前にスタッフにお申し出ください。

③神経損傷

- 皮膚の表層近くの神経は個人差が大きいため、神経損傷を100%防ぐことはできません。約1万~10万回に1回の頻度で起こるとされています。
- 針を刺したときに手指への強い痛みやしびれが出た場合は、すぐにお申し出ください。
- 大部分は1週間以内に、多くは3ヶ月以内に改善します。すぐにお伝えください。

④血管迷走神経反射

検査前や検査中に神経が興奮し、急激に血圧が下がるためにめまい、気分不快、意識消失などを引き起こします。
ご経験のある方は検査前にお申し出ください。

これらの合併症は血液検査のみならず、血管穿刺を行う全ての検査・処置にも起こりえます。ご不明な点がある場合は診察の際、医師によく確認して、ご納得のうえお受けいただくようお願いいたします。また、合併症が起きた場合には最善の処置を行います。
(なお、その際の医療は通常の保険診療となります。)